んだ挙げ句、かるたを持って行って遊んであげようと考え、カバンに入れて出掛けました。念願通り、かるたで遊んであげられてよかったそうです。園の子ども達が「抱っこして。」、「一緒に給食食べよう。」お昼寝の時「トントンして。」と言ってあまえてきて、みんな可愛かったそうです。家ではいつまでもあまえん坊でわがままな亜莉沙ですが、二日間お世話になって、幼い子のお世話をして何かを感じたのか、わがままが少なくなり生活に少し変化が見られました。

二日間、お手伝いに行って「楽しかったけど、先生の大変さもわかった」と言って幼い頃、小羊の先生方に沢山お世話になった事を二人共改めて感謝しています。そして、亜莉沙は保育士になりたい夢が大きく膨らんだ様です。侑理香も、保育士か幼稚園の先生になるのもいいなぁと思っているそうです。

最後になりましたが、いつも温かく迎えてくださる小羊の先生方の心に親子共々感謝しています。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。それと、小羊っ子のかわいいメッセージを沢山頂きありがとうございました。一人一人の顔を思い浮べながら、ひとつひとつ嬉しそうに見ていました。

卒園児保護者

（小学六年生、小学四年生）

「おじちゃん先生の思い出」

卒園児　小学六年生

保育園に行くと、今でもおじちゃんが「お帰り」と言って出て来てくれるような気がします。

思い出すのは、いつもやさしい顔をしたおじちゃんです。園児のころ登園して、おじちゃんの姿を見つけ「おーいおじちゃーん」と大きな声で呼ぶと、手をふりながら「おはよう。」と言ってくれる、おじちゃんの姿が心に残っています。

卒園してからも、毎日、妹をむかえに行っていたので駐車場でおじちゃんの姿を見つけ、かけよると、「お帰りー。」と言ってハイタッチでむかえてくれました。学校での事を話すと、「すごいな、がんばっているな。」と言っていつも、ほめてくれました。

卒園してからの2年間の方がおじちゃんと、たくさん話をしたと思います。

おじちゃんがいなくなって3年たつけど、「いつでも小羊に帰っておいで」とおじちゃんが呼んでくれているような気がして、ときどきおじゃましています。

みんなが集える場所が完成するのを楽しみにしていました。新しいおじちゃん家に小羊のなつかしさも、求め遊びに行きたいと思います。